

2025年度

K 2

国 語

2月25日(火)

人文社会科学部(法学科, 経済学科)

15 : 20 ~ 16 : 10

【前期日程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで, 問題冊子, 解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って, 全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は, 6ページあります。はじめに, 問題冊子, 解答用紙を確かめ, 枚数の不足や, 印刷の不鮮明なもの, ページの落丁・乱丁があった場合は, 手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については, 下記の点に留意すること。

- ・書き出しは, 一マスあけない。
 - ・句読点及び括弧等はそれぞれ一マスとする。
 - ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」等は一マスで使う。
- 6 問題は, 声を出して読んではいけません。
- 7 配点は, 比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子は, 必ず持ち帰りなさい。

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(配点一〇〇%)

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、
公表しません。

(山本圭『嫉妬論』による)

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナの部分に漢字に改めなさい。

問二 傍線部A「自らを偽装する」とはどういうことか、説明しなさい。

問三 傍線部B「嫉妬者の振る舞いはイレギュラーなものに映る」とあるが、筆者はこの理由をどのように説明しているか。本文中の語句を用いて説明しなさい。

問四 傍線部C「私たちは自分より何百年も過去に生きた人に嫉妬することは稀である」とあるが、なぜそう言えるのか。本文の内容に即して、説明しなさい。

問五 傍線部D「嫉妬者はそれに我慢できない」の「それ」が指示する内容を、本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問六 波線部「相対的剥奪」が生じる具体的な状況や場面を挙げながら、相対的剥奪とはどのようなものか、あなたの考えを述べなさい。三〇〇字以内でまとめること。

正解・解答例

教科・科目名	国語（前期日程試験：令和7年度） 1 / 1	問題番号	K 2
対 象 学 部 ・ 学科(課程)等	人文社会科学部（法学科、経済学科）		
1 100% 採点時の配点 120点	問1 (ア) 秘匿 (イ) 名誉 (ウ) 多寡 (エ) 戒 (オ) 辛抱 問2 嫉妬という感情があっても容易に認めなかったり、嫉妬対象の価値を否定したりして他人に知られないようにすること。 問3 社会学的な見方では、行為者は自分の利益を最大化しようとする合理的な主体と捉えられ、モデル化されているが、嫉妬者は功利主義的な快樂計算にはしたがわず、自分が損をしてでも他人の不幸を願うから。 問4 嫉妬は、時や場所や年配、世の評判など、何らかの観点から嫉妬者に近い人物に向けられるものであり、比較可能でない相手には感じないから。 問5 他人の成功 問6（解答例） 高校の部活動でサッカー部の私は、毎日の厳しい練習に参加し続け、実力をアピールして監督に認めてもらい、ついにレギュラーの座を獲得した。ところが、練習にあまり参加していなかった新入生も、足が速いという理由でレギュラーに抜擢された。私がレギュラーから外されたわけではないが、努力の積み重ねが無駄になった気がして、不利益を被ったように感じた。そればかりかその新入生に辛く当たってしまいそうになった。この例から、相対的剥奪とは、自分の利益が減らなくても、身近な他者との比較から不満を感じる事だと言える。また、剥奪感の解消について、個人の責任に帰する以外の方法を集団として議論していく必要があると考えられる。（二九六字）		

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	国語（前期日程試験：令和 7 年度）	問題番号	K2
対 象 学 部・ 学科(課程)等	人文社会科学部（法学科、経済学科）		
出題のねらい	① 現代的な評論文を読んで、基礎的な知識、文脈を把握する読解力、論理的な思考力と基礎的表現力をみる。		
採 点 基 準 (点数は120点 満点の場合)	① 配点 1 0 0 % (1 2 0 点) 問 1 2 0 点 (4 点 × 5) 問 2 2 0 点 問 3 2 0 点 問 4 1 5 点 問 5 1 0 点 問 6 3 5 点		